

令和3年度 学校自己評価及び学校関係者評価表

武蔵村山市立第二小学校

令和4年2月25日現在

経営理念	「児童と教師が自分らしく生き生きと学び、共に成長し、一人一人が明るく輝く学校」 (1) 児童一人一人が自信をもち、学びのエンジンを動かして、伸びる喜びをつかむ。 (2) 確かな自尊感情をもち、周りの人を大切にすること。(自分が好き。みんなが好き) (3) 保護者・地域との協働により、児童の安心と安全が、保障される。
------	---

【学校運営協議会・会長】 乙幡 芳美			
学校運営協議会(学校評価分)	第1回	6月25日(金)	
	第2回	9月3日(金)	
	第3回	2月25日(金)	

	経営目標 (中期・短期を明記)	目標達成のための方策	評価指標	自己評価				分析コメント(学校関係者評価委員会の意見、児童・生徒評価、保護者評価等の意見について参考にする。)	改善策(来年度の目標設定、具体記な取組目標)	学校関係者評価	
				7月 12月 目標値		最終評価				意見 (昨年度ベースで記入してあります。)	評価点 (4点満点)
				達成値	達成値	達成度	評価				
確かな学力の向上	学習内容の確実な定着と充実を図る。	学習の見通しや達成感をもてるように、授業の導入部で学習の「ねらい」を共有し、授業の終わりに学習内容・方法の「まとめ」のある授業を積み重ねる。	・授業が分かると答えた児童の割合 ・学力が身に付くような授業をしていると感じている保護者の割合	85	82	98	A	□多くの児童が学習内容を理解していることが分かる。今後も児童一人一人の考えを大切に、授業改善に努めながら、児童全員が「できた・分かった」と実感できる授業を展開していく。	・今年度は目標値を85にしたが、目標達成のため、さらなる授業改善に取り組む。 ・今後も、「ねらい」と「まとめ」を意識した授業を積み重ね、学校全体としての学力向上に努めていく。 ・自らの力で自信をもって学習に向かう力を育てていく。	・教職員の皆様の頑張りに期待する。 ・子供たちのための確かな教育活動を引き続きお願いする。 ・今後も児童が分かる授業を目指してほしい。	4
		チャレンジタイムや家庭学習(宿題)等を活用し、反復練習(読み・書き・計算)を強化していく。	・児童と保護者がチャレンジタイムや家庭学習を必要と感じる割合	80	80	100	A	□8割以上の児童、保護者が「チャレンジタイムや宿題で、学習内容が分かるようになった。」と感じている。宿題に取り組むことで学習内容の定着が図られるとともに、家庭学習では保護者の協力も大きく影響している。基礎学力の定着のため、引き続き家庭の協力をお願いしていく。	・今年度は目標値を80にしたが、目標を達成できたので来年度は、85に上げる。 ・学習内容の定着を図るために、チャレンジタイム(補習)の内容や方法を工夫改善していく。	・適切な量の宿題を出し、確実な定着を図ってほしい。 ・学習に遅れがちな児童への対応に力を注いでほしい。	4
		算数科を通して、みんなで考えることを楽しめる児童を育成する。また、算数科の習熟度別学習と、東京ベーシックドリルの活用を行い、算数科の基礎力の習得を確かにする。	・みんなで考えながら算数の問題を解くことが楽しいと答えた児童の割合 ・算数科の基礎力が習得できていると感じている保護者の割合	80	71	91	A	□7月と12月のアンケートを比較すると、「よくあてはまる」「あてはまる」を選択した児童、保護者の割合が若干少なくなっていた。これは学習量が多い2学期において、つまづいてしまう単元があったり、繰り返し練習が伴う学習内容があったりしたことにより、楽しさや自信をもって学習に取り組めることが少なくなったのだと予想される。自分の考えを伝え友達意見を聞くことや学習したことがきちんとできるようにすることで、学ぶ楽しさを感じられるような授業を展開していく。	・手だてを考え、全員発表できるような工夫をする。 ・東京ベーシックドリルを有効活用し、個別の対応をしながら、基礎基本を中心に学力の向上を図る。 ・学習における児童の主体性を尊重していく。	・自分の意見を言ったり、友達意見を聞いたりする指導方針はよい。 ・個に応じた指導の充実を進め、組織的・計画的に運営してほしい。 ・字を丁寧に書く習慣が身に付けられるとよい。	4
豊かな心の育成	「特別の教科 道徳」の授業を充実させる。	写真や挿絵等の資料提示や補助発問等の工夫を図りながら実践をする。また、「考え、議論する道徳」を展開し、これからの思いや課題について考える時間を設けるようにする。	・自分の考えや他者への思いを深めることができた児童の割合 ・自分の子が道徳の授業を通して、考えを振り返ったり、これからのことを考えたりしていると感じている保護者の割合	80	71	89	A	□令和2年度より、「よくあてはまる、あてはまる」と答えた児童の割合が増えた。これまでの道徳の授業において、自分や友達(他者)のことについて考えることを積み重ねた成果だと考えられる。今後も、道徳の授業や日常で様々な問題場面に会った際に、その状況に応じて考え、判断ができる児童を育てていくとともに、道徳授業地区公開講座等を活用し、学校や家庭、地域が連携を深められるように取り組んでいく。	・一人一人が自分の考えを広げ深められるように、教育活動全体を通して、道徳教育を推進していく。 ・道徳への取組を道徳授業地区公開講座等を通して周知するとともに、道徳授業地区公開講座をもっと身近なものにしていく。	・計画的・意図的に道徳の授業を実施してほしい。 ・道徳を通して、思いやりのある人間形成を目指してほしい。	4
	体験活動や交流学習に取り組む。	ふるさと教育の体験活動や高校生との交流に取り組み、一生懸命全力で頑張るすばらしさを実感させる。	・体験学習等が楽しいと答えた児童の割合 ・自分の子が体験学習等を楽しいと感じている保護者の割合	85	89	102	A	□8割以上の児童が「楽しんで学習できた。」と答えている。楽しみながら活動することで、より地域のことや伝統的な文化に興味をもつことができる。また、活動の意義や内容を多くの保護者の方に御理解いただいているので、これからも地域に根付いた活動を大切にしていきたい。	・体験学習の成果と課題を踏まえ、児童の成長につながるよう指導の工夫・改善を図るために、年間指導計画に位置付け、意図的・計画的に取り組むを進める。	・来年度は、体験活動がもっとできるようになるとよい。 ・専門性の高い内容や技術について児童が学べることは大変よい機会である。	4
	読書活動の充実を図る。	ブックトークや読み聞かせ、貸し出しカード等の工夫を図り、学校図書館の本を年間50冊以上を借りるとともに、心に残った本を3冊以上あげられるようにする。	・学校図書館貸出数、50冊以上を達成し、かつ、心に残った本が3冊以上ある児童の割合	80	69	95	A	□達成度は、95%であった。さらにすすんで本を読む児童が増えるよう、今後も図書の時間における読み聞かせや本の紹介を通して本に親しむ機会をつくることや本を読む楽しさを伝えるとともに、図書の補充や拡充を図り、読書環境を整備していく。家庭でも読み聞かせしたり一緒に本を読んだりする時間を取ったりすることで、本への興味・関心を高めていくことが期待されるので、協力をお願いする。	・来年度の目標値は引き続き80とする。 ・学校司書と図書担当教員の連携を更に深め、図書委員会の活動の充実を図っていく。 ・児童の興味や関心を高めるために、家庭での読み聞かせや読書をお願いしていく。	・図書館で本を借りてきている。積極的に本を読んでもほしい。 ・活字に触れる機会を増やしてほしい。 ・学校司書の配置はよい。読書活動は、読解力を身に付け、学力向上につながる。	4
健やかな体の育成	基本的な生活習慣の確立を図る。	「早寝・早起き・朝ごはん・歯磨き」の推進をし、健康な体づくりを目指す。	・自らを振り返り、改善を図るために実践できた児童の割合 ・自分の子が継続して基本的な生活習慣を身に付けようとしていると感じている保護者の割合	85	80	94	A	□各家庭の継続した取組の成果で、高い数値で安定した評価となっている。健康でおいしい体づくりのためにも今後も保健の授業や給食指導等で「早寝、早起き、朝ごはん」の大切さを伝えていく。	・基本的な生活習慣の定着が図られている。基本的な生活習慣の確立は、学力向上の礎でもあり、本校では重要課題であると捉え、引き続き指導を行っている。 ※新型コロナウイルス感染症予防のため、今年度も学校で歯磨きを行っています。	・基本的な生活習慣に関して、家庭の理解と協力が不可欠である。連携して取り組んでもほしい。 早寝早起きも継続して指導してほしい。 ・歯磨きをしっかりと行うことにより、むし菌の減少につながる。	4
	体力の向上を図る。	個や能力に応じた場の設定等、体づくり運動の充実を図り、運動量を十分に確保できる指導の充実を図る。	・体力づくり運動に積極的に取り組んだ児童の割合 ・自分の子が体力づくりに積極的に取り組んでいると感じている保護者の割合	90	85	94	A	□「よくあてはまる、あてはまる」が8割以上と高い数値を維持している。引き続き児童一人一人の取り組みを十分に認め体育の時間の充実を図り、児童の体力を向上させていく。	・中休みの5分間走やなわとびへの取り組みを続け、児童の体力向上への意欲が継続していくように指導する。また、児童の運動量を十分に確保した体育学習を実施していく。	・中休みの5分間走やなわとび月間を来年度も実施できたらよい。 ・体育の授業での児童の運動量を確保してほしい。	4
安全・安心な学校づくり	自分で考え、判断し、行動できる児童を育成する。	安全指導計画を基に避難訓練や登校班指導、交通安全教室、セーフティ教室等の安全教育を充実させる。	・危険を予測し、回避できる児童の割合 ・自分の子が危険を予測し、回避しようとしていると感じている保護者の割合	85	78	90	A	□毎月実施している避難訓練の経験の積み重ねもあり、児童は非常時の行動が「適切にできる」と回答される保護者が6割以上となっている。今後も、「自分で判断し、考え、行動できる児童」の育成のために、安全教育計画に基いた避難訓練や安全指導を実施していく。	・保護者や地域、関係諸機関等と連携し、児童の安心と安全を保障していく。※東京マイタイムラインの活用	・今後も、自分で考え、判断し、行動できる児童を育ててほしい。	4
	学校から保護者・地域への情報発信を積極的に行い、双方向の連携・協力体制を強化する。	保護者・地域に必要と思われる情報を適宜発信する。	・学校からの情報発信に満足している保護者の割合	80	64	84	B	□約6割の保護者が「学校からのお知らせやHP等によって、学校の取組や児童の様子が分かる」と回答している。一方、1割程度の保護者が「よく分からない」と回答している。昨年度に続き、感染症対策として保護者の参観を制限しているが、児童の活動の様子を伝えるために、学校ホームページやツイッターを随時、更新していく。また、学校からのお知らせや緊急時の場合などは、学校配信メールを活用していく。	・情報発信を継続的に行っていく。PTAや地域の行事に教員が参加している様子も発信していく。資源回収、二小秋まつり、みかん狩り、もちつき大会等の行事への参加を促していく。	・情報は、新鮮なうちに発信してもらえるとうい。	4
平均値										4	

【達成度】＝〔達成値〕／〔目標値〕

【評価】 A：8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定

B：8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施

C：5割未満→目標の見直し